

公益財団法人庭野平和財団
平成 28 年度前期活動助成 活動終了報告書

コード番号	: 16-A-026
事業名	: ケニア国ホマベイ郡ビタ準郡におけるエイズ孤児と保護者に対するライフプランニング支援事業
実施団体	: 特定非営利活動法人 エイズ孤児支援 NGO・PLAS
実施期間	: 2016 年 8 月 1 日～2017 年 7 月 31 日

1. 活動の背景と目的

活動地の概要

ケニア共和国は東アフリカの中心都市ナイロビを首都とする国で、インド洋に面したモンバサ港は国際港としてウガンダやルワンダといった内陸国の経済にも影響を与える重要な役割を果たしています。GDP の成長率は 6%前後と国全体の経済成長は進んでいる一方で、人口の約半数は貧困ライン以下で暮らしています。

ホマベイ (Homa Bay) 郡はケニア共和国の西部に位置し、ヴィクトリア湖に面した地域です。人口は約 100 万人で、成人 (15 歳以上) の HIV 感染率が 25.7% と全国で最も高い地域です。また、孤児や脆弱な家庭に暮らす子ども (OVC) の数は 112,367 人 (2012) で、孤児を抱える家庭数も 6 万家庭と人口 100 万人程度の他の郡と比べても多いのが現状です。

貧困家庭の子どもたちの教育状況

事業対象地のビタ準郡は漁業も盛んな地域ですが、漁業を営まない住民は、乾燥した土地で暮らしているため生業として農業を営むことが難しく、小規模ビジネスや薪・石炭売りをして暮らしています。2016 年 3 月に当会が実施した調査では、孤児を抱える家庭の保護者のうちセカンダリスクールに進学している人は一人もいませんでした。また平均月収は約 2,000 シリング (約 2,300 円、中間値は 1,600 シリング) でケニアの国の平均 (8,900 シリング) の 2 割強ほどしかありませんでした。

ケニアでは 2003 年よりプライマリースクール (初等教育課程で 8 年制) の授業料が無償化されていますが、制服、教材費、試験代等の追加の費用が各家庭負担となるため、貧困家庭の子どもはプライマリースクールの修了も大きなハードルとなっています。

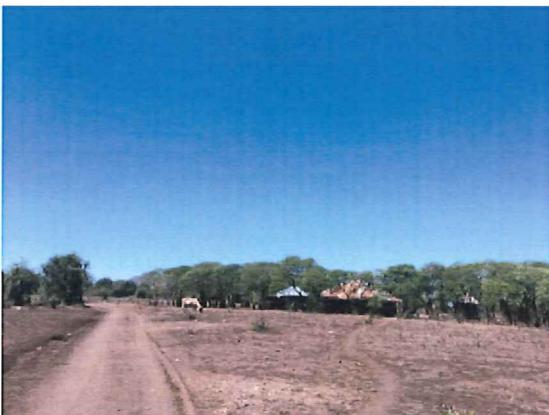
また、保護者の子どもに対する養育態度・自己効力感、学費に対する知識 (次年度の学費の把握の有無)、家計研修を受けた経験の有無がそれぞれ留年回数と相関があると考えられ

ます。養育態度・自己効力感が高いほど（高 0.83 vs. 低 1.00）、学費に対する知識があるほど（有 0.82 vs. 無 1.00）、家計研修を受けた経験があるほど（有 0.75 vs. 無 0.95）、子どもの留年回数が低い結果でした。

孤児や貧困下にある子どもたちはプライマリースクールを修了したとしても、進学ができなかったり、進学しても中退してしまったりというリスクを抱えています。進路に関する情報が限られているため、どのように将来の計画を立てていけばよいか十分な指導が得られないまま、学校教育から離脱していきます。現地のパートナー団体とも協議を進め、子どもたちのより良い発達や望ましい将来のために、子どもとその保護者を対象に支援する必要性を認識し、事業の立案に至りました。

事業の目的

本事業では、エイズの影響を多大に受ける地域に暮らす孤児（片親または両親を亡くした子ども）が、自身が置かれた状況に屈せず、自ら未来を切り拓くために必要な資質を備え、現実的なライフプランニングに基づいて行動できるようになることを目的とします。またそれを支える保護者のキャパシティー（特に子どもの教育に対する態度や理解、経済力）が向上し、子どもにとってより良い環境を作れることも目指します。



01. 事業地の様子



02. 問題構造分析を行う現地パートナー団体スタッフ

2. 活動内容と方法

子どもキャリアスキルにアプローチする

ケニアでもセカンダリスクールでは「ガイダンスとカウンセリング」というプログラムを持っており、進路指導を含んだ生活指導を行っています。資源が限られているため十分な指導の機会が提供されていないこと、また多くが HIV や薬物依存の予防啓発に偏っている

るといふ報告もあります。さらにセカンダリスクールに進学できない貧困家庭の子どもたちにはこうした指導を受ける機会に乏しいと言えます。

本事業では、子どもが自分の将来について考えていくために、「キャリア」や「キャリアスキル」に着目しました。これは単に就業を目指したのではなく、人生の中で辿るあらゆる道筋とそこに至るための計画や考え全体を含んだ広い概念です。そしてこのような個人のキャリアやその決断には、個人の発達、経験、環境や外部影響が関係しているという考え方があります。

幅広い視点で将来のことを考えられるように、また置かれた状況が変化してもそれに応じて自分で進路を切り拓ける力や考え方を持てるように、広い概念としての「キャリア」の考え方を採用することとしました。

モジュールの開発とカウンセラー研修

上記のキャリアの考え方を基に、子ども、保護者それぞれに全 7 回で完結するカウンセリング・モジュールを開発しました。対象となる子どもや保護者が主体的にまた飽きずに学べるようアクティブ・ラーニング手法を用いたカウンセリングの流れを考えました。

開発したモジュールをもとに、現地のパートナー団体でカウンセリングを担当する職員 4 名を対象に研修（全 7 日間）を実施しました。また、同職員たちは実際にカウンセリングサービスを提供する前に、自主的にロールプレイングを実施し（ある職員が子ども役になってもう 1 人がカウンセラー役でカウンセリングを練習）、カウンセリングの流れを確認しました。

表 1：子どもを対象としたモジュールの構成

#	テーマ	具体的内容
1	Getting to know yourself	描画による自己の発見
2	Steps to developing career planning skills No. 1	キャリアの虹を使った人生における個人の役割の確認
3	Steps to developing career planning skills No. 2	カウンセラーの個人経験の共有、結婚と子育てに関する様々な見方
4	Contribution Experience	地域への奉仕活動
5	Change by your efforts	100 マス計算による努力と結果の関係の認識
6	Reflection of career talks	キャリアトークの振り返り
7	Making career decisions and planning	将来の計画を立てる

表 2：保護者を対象としたモジュールの構成

#	テーマ	具体的内容
1	Child Development Knowledge and Care	子どもの発達と保護者の役割を知る
2	Positive Communication Skills	ロールプレイングを用いて子どもとの良い/悪いコミュニケーションを知る
3	Getting Involved in Child' s Homework	子どもの視点に立った宿題の支援の仕方
4	Importance of having information on secondary school	セカンダリスクールに関する情報を知る
5	Proper management of household finance	ゲームを使って家計の考え方を学ぶ
6	Sexual and Reproductive Health	子どもに伝える性と生殖の健康
7	Business Skills Basic	ゲームを使ってビジネススキルを学ぶ

キャリア・カウンセリング活動

カウンセリングはカウンセラーと対象者の 1 対 1 で行われました（子どもの第 4 回目のモジュールだけは集団で実施）。事前に時間を調整した上で、保護者には家庭を訪問し、子どもには家庭または学校を訪問し、担当のカウンセラーがカウンセリングを提供しました。対象者は月に 1 回カウンセリングを受けることになり、各モジュールはおよそ 30～50 分程度で完了するように設計されています。さらに、個別のカウンセリングとは別に、子どもを対象にキャリアトークを実施しました。これは地域で働く人々をお呼びして、生い立ち、教育、職業経験をお話してもらうものです。

また、毎回のカウンセリングの後には、カウンセラーによるアセスメントを実施しました。アセスメントは対象者の積極性や理解度等をカウンセラーの主観で量的に測定するもので、点数が一定に満たない対象者には次回のカウンセリングでより時間をかけてサービスを実施することになります。

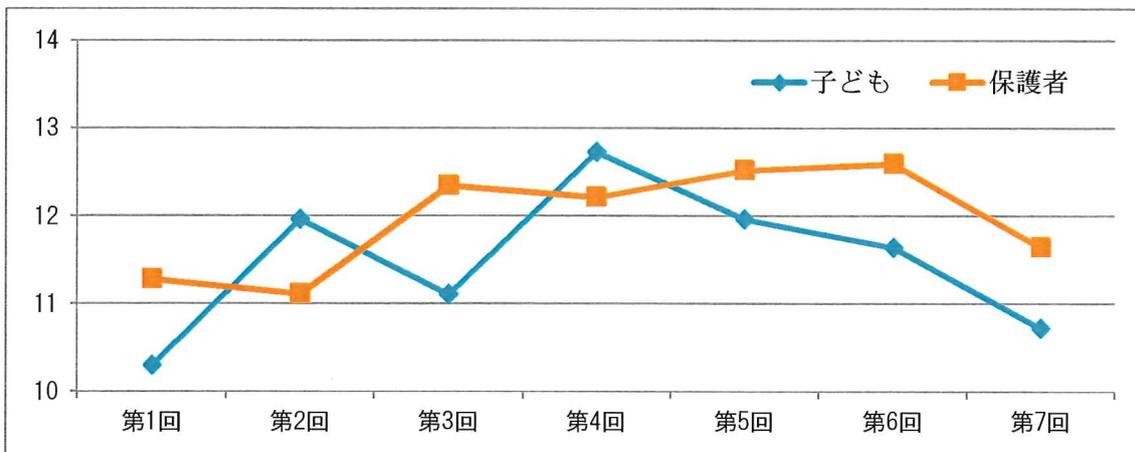


図 1：アセスメントスコア（平均値）の推移

モニタリングと評価

モニタリングと評価は、以下の 3 つの方法で行いました。

- ① 活動の進捗・課題、対象者の様子や変化についてのパートナー団体職員による月報
- ② 成果指標に沿った事業開始時と終了時の構造化インタビュー調査（インタビューや子どもと保護者を別々に行い、回答は Google フォームを用いてデータ入力をしました）
- ③ 中間時点、終了時点でパートナー団体との協議に基づいた事業評価や修正提案

3. 活動の実施経過

2016 年

- 8～10 月 カウンセリング・モジュールの開発……………①
- 9 月 事業開始時のインタビューの実施……………②
- 9 月 ステイクホルダー会議の実施……………③
- 10 月 カウンセラー研修の実施（1 回目）……………④
- 11 月～6 月 カウンセリングサービス実施（全 7 回）……………⑤

2017 年

- 2 月 中間レビューの実施……………⑥
- 3 月 カウンセラー研修の実施（2 回目）……………④
- 6 月 キャリアトークの実施……………⑦
- 7 月 事業終了時のインタビューの実施……………⑧

①カウンセリング・モジュールの開発

「2. 活動内容と方法」を参照。

②事業開始時のインタビューの実施

2016 年 9 月にはプライマリースクール 6 年生の子どものいる 100 家庭を対象にインタビューを実施しました。プライマリースクール 6 年生を選んだのは、個別にカウンセリングを受けても、ある程度の理解や積極性が期待できること、プライマリースクール修了までに 2 年以上の時間があり（ケニアではプライマリースクールは 8 年制）、準備期間が取れることを理由としてパートナー団体との協議の上、決定しました。

100 家庭の中から、保護者の収入（より低い人を優先）、教育レベル（より低い人を優先）、年齢（20～40 代）等によって 30 家庭をカウンセリングサービスの対象家庭として選びました。カウンセリング開始前には、保護者ミーティングを実施し、事業の説明をしました。

③ステイクホルダー会議の実施

2016 年 9 月には現地でステイクホルダー会議を実施しました。児童局、教育局、保健局、行政局の関係機関の地域担当官と、パートナー団体の職員が参加し、事業の概要やカウンセリング活動、またインタビュー調査結果の発表を行いました。活動に際して各局より協力が得られるよう要請しました。また事業対象となる家庭の選定は、よりニーズの高い人々を選ぶようコメントをもらいました。会議の準備や当日の発表はパートナー団体が中心に実施したことで、プロジェクトへの理解度やオーナーシップが向上したと考えられます。

④カウンセラー研修の実施

2016 年 10 月、2017 年 3 月にはケニア教育省の行政官によってカウンセラー研修が実施されました。事業で開発したモジュールを基に、必要とする関連知識やカウンセリングの実施手法について研修を行いました。

⑤カウンセリングサービス実施

カウンセリングサービスは当初 30 家庭の子どもと保護者を対象に提供されていましたが、2017 年 4 月には保護者の 1 名が病気のため亡くなり、その子どもは親戚に引き取られたため事業参加の継続が困難となり、5 月以降は 29 家庭を対象にカウンセリングを実施しました。対象の子どもと保護者の基本属性は以下の通りです。

子ども：平均年齢 14.34 歳、女性 14 名・男性 15 名、プライマリー 7 年生（事業終了時）

保護者：平均年齢 40.14 歳、女性 25 名・男性 4 名、69%が HIV 陽性者（事業終了時）

⑥中間レビューの実施

2017 年 3 月にはパートナー団体の担当スタッフと中間レビューを行いました。概して活動実施に大きな課題はないものの、保護者が不在のために予定していた活動が実施できないことがありました。これは携帯電話を持っていない保護者のケースが多いことから、近隣の受益者や住民の協力を得ることで解決することとしました。また、この事業の良い点として、以下を挙げてくれました。

- 1 対 1 であることで個別の子どもの課題に対応できる（例えば出産をした子どもには特別な情報提供やカウンセリングを、モジュールの内容を越えて実施する）
- 面会頻度が高く、子どもや保護者と定期的に会えることで良い関係を作りやすい
- 子どもの発達やキャリアについて保護者は情報や知識を持っていない。またコミュニケーションスキルのセッションも重要である（親は子どもを叩いたり、命令したりしようとするため）。こうした課題に取り組む事業は現地にはほとんどない。

⑦キャリアトークの実施

2017 年 6 月には 3 名の講師を招いてキャリアトークを実施しました。

⑧事業終了時のインタビューの実施

2017 年 7 月には事業対象となった 29 家庭の子どもと保護者にインタビューを実施しました。詳しくは「4. 活動の成果」を参照ください。



03. ステイクホルダー会議の様子



04. カウンセラー研修の様子



05. 子ども向けのカウンセリングの様子



06. キャリアトークの様子

4. 活動の成果

活動を通して、保護者と子どもたちに良い変化をもたらしたことがインタビュー結果やカウンセラーによる報告で明らかになりました。保護者は子どもの発達段階に応じた役割を認識し、子どもとの良いコミュニケーションスキルによって日々の家庭学習行動を促すようになりました。また家計管理により貯蓄行動が改善され、学費滞納も減りました。子どもはキャリアスキルによって前向きに自分の進路や将来を考えられるようになり、学業に励むようになりました。以下に、事業開始前に立てた期待する成果の目標と終了時の評価、その評価をする根拠となったインタビュー結果やカウンセラーからの報告を提示します。

表 3：保護者に起こる期待される成果に対する評価

事業開始前に立てた目標	事業終了時の評価
子どもの教育に対する理解が深まり、教育ビジョンや必要な支援の意義や重要性を把握する	子どもの教育に対する態度、子どもの発達や教育関連行動の得点が改善されていることが確認されました。またセカンダリスクールに関する十分な情報を持っている保護者の割合も増えました。
適切な家庭の収支計画を立てられるようになる	家計スキルと貯蓄行動が改善されていることが確認されました。また学費の滞納額も減りました。
収入を向上させるための活動が開始する	17 家庭に対して生計向上支援を提供し、活動が開始されました。

表 4：子どもに起こる期待される成果に対する評価

事業開始前に立てた目標	事業終了時の評価
家庭の状況を理解した上で、自分自身の能力を最大化できるキャリアプランを構築する	カウンセリングサービスを通して、全ての子どもがキャリアプランを立てました。
ライフプランニングを含めたライフスキルの能力が向上する	ライフスキル、キャリア発達の度合、自己効力感、将来への希望の得点が改善されていることが確認されました。
学業への意欲が向上し、成績向上のための取り組みが開始される	将来への準備の得点が改善されていることが確認されました。また実際に将来の夢や目標に向けて学業に励み、成績向上した子どももいました。

[インタビューの結果から分かった活動の成果]

インタビュー項目は成果指標を基にして構成したもので、以下の通りです。活動成果を測定するにあたり、それぞれの項目について、事業開始時点と終了時点の状況を比較分析しました。分析には統計分析ソフト RStudio を使用しました。質的データにはカイニ乗検定、量的データには対応のある 2 群の t 検定を用いました。

[保護者へのインタビュー項目]

- 子どもの教育に対する態度
- 子どもの発達や教育関連行動
- セカンダリスクールの情報
- 学費の支払状況
- 家計スキル
- 貯蓄行動
- 職業に関わるストレス

[子どもへのインタビュー項目]

- キャリア発達
- ライフスキル
- 自己効力感
- 将来への希望
- 将来への準備
- 保護者の教育支援
- 家族関係

保護者に起こった変化

子どもの教育に対する態度（9 問から成る態度を測定する得点（ $\alpha=0.70$ ））、子どもの発達や教育関連行動（11 問から成る行動を測定する得点（ $\alpha=0.74$ ））、家計スキル（5 問から成る家計行動の状態を測定する得点（ $\alpha=0.56$ ））で、開始前と比べ、保護者の状況が改善していることが確認されました。一方で、職業に関わるストレス（12 問から成るストレスを測定する得点（ $\alpha=0.82$ ）※得点が低い方がストレスが低い）では改善が見られず、更なる支援の必要性が確認されました。これは生計向上支援（活動助成の対象外）が開始されたばかりで、未だ成果として現れていないためと考えられます。

表 5：保護者の変化（29 名の平均値の差の検定）

項目	開始時 平均値 (SD)	終了時 平均値 (SD)	T	差[信頼区間]	P
子どもの教育に対する態度	32.68(2.70)	40.28(5.74)	6.72	7.6 [5.29 – 9.93]	< 0.01
子どもの発達や教育関連行動	34.10(8.51)	46.03(4.80)	6.81	11.9 [8.34 – 15.52]	< 0.01
家計スキル得点	12.03(3.01)	16.34(2.58)	4.95	4.3 [2.52 – 6.08]	< 0.01
職業に関わるストレス	37.57(5.31)	34.76(5.92)	-1.83	-2.8[-5.96 – 0.33]	< 0.1



07. インタビューの様子



08. 事業に参加する保護者たち



09. 活動地の様子（遠隔地に住む受益者の家庭には丘を歩いていくこともあります）

セカンダリスクールの情報

事業開始前と比べ、セカンダリスクールに関する十分な情報を持っていると回答した保護者の割合が、いずれの項目においても増加しました。（ $p < 0.01$ ）

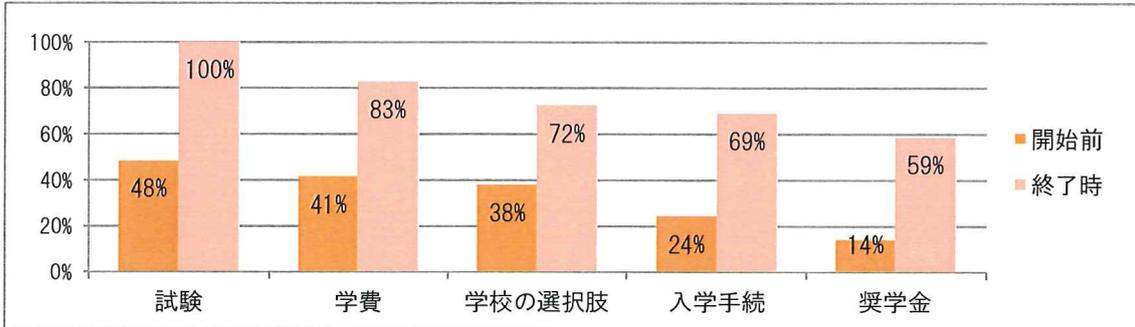


図 2：十分な情報を持っている保護者の割合

学費の支払状況

開始前には「頻繁に」学費を滞納する保護者が多くみられましたが、終了時にはそうした保護者の数は減りました。また、平均滞納額も開始前には 587.50 シリング（約 650 円）だったのが、終了時には 51.60 シリング（約 60 円）まで下がりました。

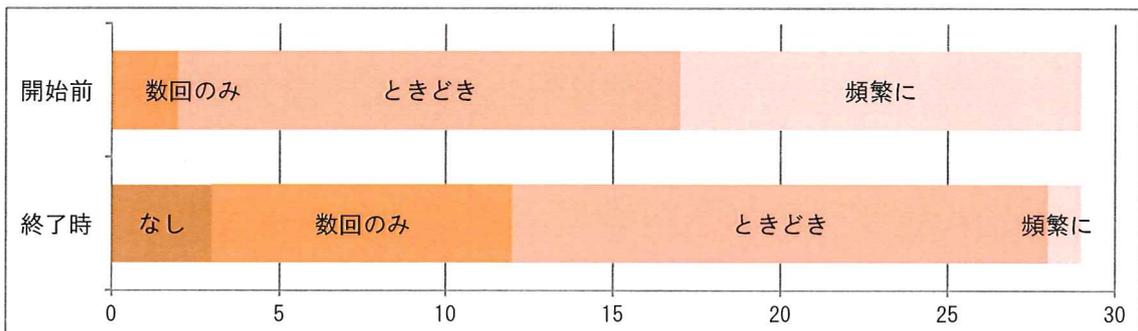


図 3：「過去 1 年に学費を払えなかった、または遅れることがありましたか？」への回答

貯蓄行動

事業開始前と比べ、貯蓄行動をする保護者の割合が増加しました。（ $p < 0.05$ ）

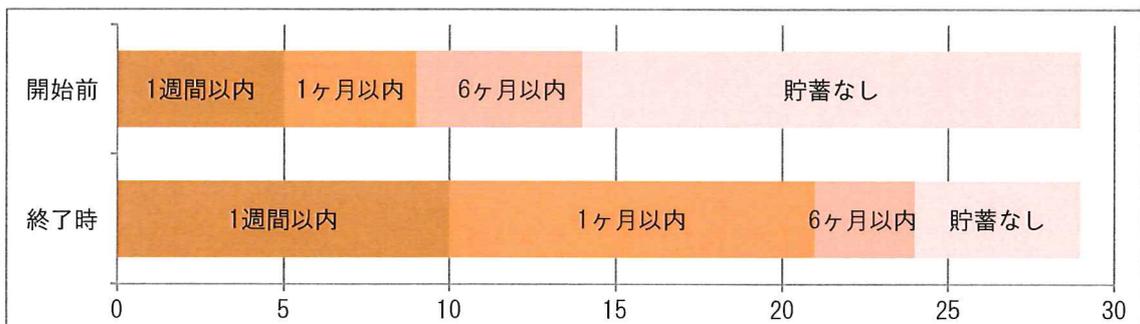


図 4：「最後に貯蓄をしたのはいつですか？」への回答（29 名）

子どもに起こった変化

キャリアスキル（18 問から成るキャリア発達の度合を測定する得点（ $\alpha=0.87$ ））、ライフスキル（5 問から成るライフスキルを測定する得点（ $\alpha=0.71$ ））、自己効力感（3 問から成る自己効力感を測定する得点（ $\alpha=0.73$ ））、将来への準備（5 問から成る将来への準備行動を測定する得点（ $\alpha=0.77$ ））、保護者の教育支援（12 問から成る子どもが観察した保護者の教育支援を測定する得点（ $\alpha=0.81$ ））、家族関係（4 問から成る家族関係や満足感を測定する得点（ $\alpha=0.63$ ））で、開始前と比べ、子どもの状況が改善していることが確認されました。

表 6：子どもの変化（29 名の平均値の差の検定）

項目	開始時 平均値 (SD)	終了時 平均値 (SD)	T	差 [信頼区間]	P
キャリア発達	47.62(8.86)	72.41(9.04)	10.17	24.8 [19.80 – 29.80]	< 0.01
ライフスキル	15.38(5.34)	21.47(2.50)	6.15	6.1 [4.06 – 8.11]	< 0.01
自己効力感	8.90(2.83)	12.07(1.74)	3.17	3.2 [1.82 – 4.52]	< 0.01
将来への準備	13.63(5.59)	19.97(2.24)	5.61	6.3 [4.02 – 8.65]	< 0.01
保護者の教育支援	35.68(11.23)	50.38(5.01)	6.02	13.7 [9.04 – 18.36]	< 0.01
家族関係	14.83(2.55)	16.38(2.07)	2.52	1.6 [0.29 – 2.81]	< 0.05

就学状況

対象となった子ども全員が就学を継続し、プライマリースクール 6 年生から 7 年生に進級する際に（ケニアでは 1 月が学年の始まり）、留年をしませんでした。開始前のインタビューでは前年度に 5 名が留年していたので、状況が改善されました。また、学費滞納のために学校に通えない状況にあった子どもの数も減りました。ケニアでは学費を滞納すると、教室に入れてもらえず、支払いをするまで学校に通えない期間があります（学校によって対応が異なる）。そのため必要な授業を受けられず成績が下がってしまうことがありますが、こうした状況が改善されたこととなります。

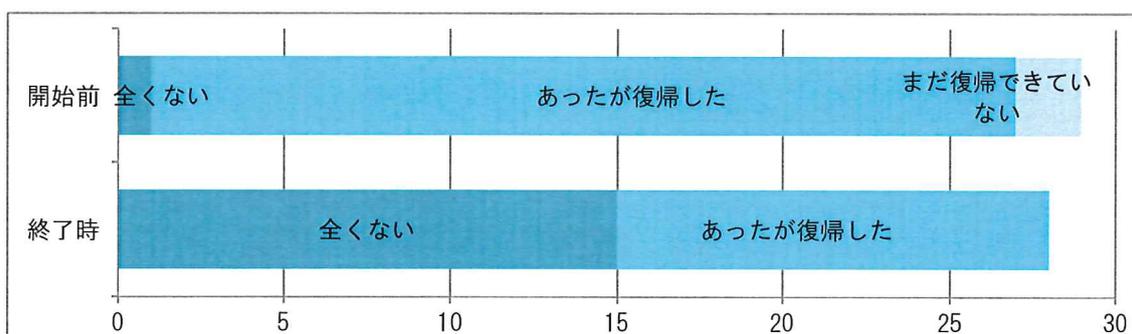


図 5: 「今学期、学費滞納のために学校に通えないことがありましたか？」への回答 (29 名)

将来への希望

将来の職業やキャリアの可能性についてポジティブな感情を持っている子どもの割合も、事業開始前と比べて増加しました。

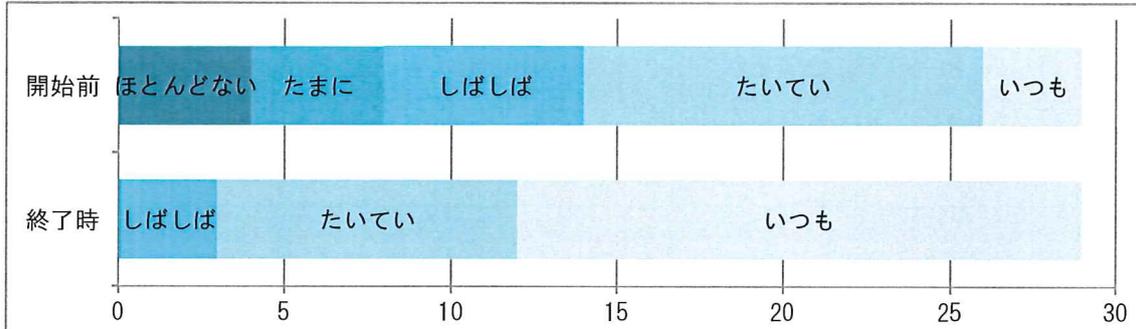


図 6：「自分のなりたい職業やキャリアについて、少なくともコミュニティの他の子どもと同じ程度の可能性があると感じているか？」への回答（29名）

【カウンセラーの見聞きした事業の成果】

ここではカウンセリングを実施したカウンセラーから報告された受益者の変化について、3つのケースを紹介します。

子どもの変化：コリンズ君とミリセントさん親子のケース

この事業に参加したコリンズ君（14歳）は父親を亡くし、母親と暮らしています。きょうだいの中では年長ですが、勉強や家事の手伝いをせずに、学校から帰ると外で遊ぶ毎日だったそうです。母親のミリセントさんは HIV 陽性者で、夫を亡くしたため、家庭は経済的に苦しい日々を送っています。これまでもミリセントさんは教師や親せきの助けを借りながら、コリンズ君が勉強に集中するよう試みましたが、うまくいきませんでした。2016年、コリンズ君とミリセントさんは事業に参加することになりました。カウンセリングを通して、コリンズ君は自分の目標や夢をつかみ取るために、継続して努力する必要があることを理解しました。ミリセントさんは、カウンセリングで学んだコミュニケーションの方法を使って、コリンズ君に働きかけました。2017年4月、カウンセラーがミリセントさんを訪問すると、コリンズ君の変化について誇らしげに話してくれたそうです。授業が終わっても学校に残って勉強を続けるようになり、成績はクラスで12番だったのが4番に上がりました。成績だけでなく、生活態度も良くなったそうで、担任の先生からもこうした変化について褒められたそうです。ミリセントさんはこうした良い変化はカウンセリングのお陰だと言います。コリンズ君の夢は航空技術者になることです。ミリセントさんは、コリンズ君がこれからも勉強に励んでくれることを願っています。

保護者の気づき①：エリザベスさんのケース

エリザベスさんはこの事業に参加するシングルマザーの一人です。彼女はプライマリースクール6年生のときに妊娠をしました。それを知った彼女の父親はとても怒って、彼女に

冷酷な態度を取りました。そのため学校を中退し、やむを得ず結婚をしましたが、結婚した相手は酒を飲んでばかりで働かなかったため、小さい子どもを抱えた彼女が一人で家計を支えていました。夫はしばらくして亡くなりました。彼女の親は性教育について全く教えてくれなかったといいます。また特に父親と良い関係を築けませんでした。彼女自身も自分の子どもとどのように接すればよいか分からないままこれまでやってきました。カウンセリングを受けて、エリザベスさんは自分と父親のような関係を、自分と子どもには繰り返したくないと言いました。性教育も子どもにとって必要な知識なので、カウンセリングで学んだことを、自分の子どもにも伝えていくそうです。事業に参加できたことをとても感謝しています。

保護者の気づき②：エリザベスさんのケース

ジョセフィンさんは HIV 陽性者のシングルマザーで、一人で 4 人の子どもを育てています。子どもたちが悪いことをしたとき、言うことを聞かないときは、叩いて叱っていました。この事業でカウンセリングサービスを受けて、子どもとのコミュニケーションの方法について考えるようになりました。子どもたちには、とにかく伝える努力をするようになったそうです。言ってだめなら、さらに言う。子どもたちを強制するのではなく、子どもたちに考えてもらい、納得した上で、行動してもらうことが、お互いにとって一番良い方法だと気づいたそうです。カウンセリングで得た学びを、日々の生活の中で実践されていました。7 回のカウンセリングが終わり、最後のインタビューのとき、ジョセフィンさんは自分の変化について教えてくれました。

5. 今後の課題

2017 年 7 月にはパートナー団体の職員と振り返りミーティングをし、事業の改善提案や今後の予定について協議しました。その結果、①カウンセリング・モジュールの修正、②保護者ミーティングの開催、③性教育の充実化、④2 年目のフォローアップ、⑤ステイクホルダーへの働きかけについて今後さらに取り組んでいくこととなりました。

①カウンセリング・モジュールの修正

より効果的にサービスを届けられるよう、一部のモジュールで内容を増減させたり（例えば描画や計算問題の量は減らす、性教育の情報量を増やす）、モジュールの順番を変えたりすることとしました。修正されたモジュールは 2 期目の受益者に使用されます。

②保護者ミーティングの開催

カウンセリング活動を通して、保護者が子育ての悩みを抱えていることが分かりました。こうした悩みを保護者間で共有することで、心理的な負担を減らすことが期待されます。

また他者の成功例を聞くことで新しいやり方を知る機会にもなります。プログラムを作って開催することで調整していきます。

③性教育の充実化

事業に参加した 30 名の子どもたちのうち 2 名が事業期間中に妊娠・出産をしました。プライマリースクールの子どもたちとはいえ、既に性的に活動的な子どもも見られることから、自分の健康について考え、望まない妊娠を予防することが必要と認識されました。また保護者に対しても、現状のモジュール（性と生殖の健康）では限定的な内容となっていることから、さらに踏み込んだ内容を盛り込むべきだとパートナー団体職員から提案がありました。この分野については、モジュールを修正する他、2 年目のフォローアップ時にも提供するサービスに含めることとしました。

④2 年目のフォローアップ

子どもたちには社会貢献活動、家庭学習の強化、キャリアプランニングのフォローアップ、キャリアトークの提供を継続的に実施することとしました。また保護者には、保護者ミーティングの開催、家計簿研修、セカンダリスクールの情報提供によって、引き続き支援をすることとしました。

⑤ステイクホルダーへの働きかけ

受益者のサービス提供やモニタリングに時間を要し、ステイクホルダーへの報告があまりできませんでした。活動内容や成果を整理して、ステイクホルダーと共有し、ステイクホルダーとの協力関係も強化していきたいと考えています。

現在の 29 家庭に加え、今後は 30 家庭を追加してカウンセリングサービスを継続していく予定です。本事業へのご支援誠にありがとうございました。

[参考文献]

- Ibrahim, R., Wamblya, P. Aloka, P. J. & Raburu, P. (2014) The Status of Career Awareness among Selected Kenyan Public Secondary School Students. *Journal of Educational and Social Research*. Vol. 4 No. 6 pp. 301-311
- 小泉令三・古川雅文・西山 久子（編著）（2016）『キーワード キャリア教育：生涯にわたる生き方教育の理解と実践』北大路書房
- Muango, G. & Ogutu J. P. J. 2012. An Evaluation of the Effectiveness of Guidance and Counselling Services in Public Universities in Kenya. *Journal of Emerging Trends in Educational Research & Policy Stud*; Vol. 3 Issue 2, pp. 151-154
- 中室牧子（2015）『「学力」の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 西川純（2016）『アクティブ・ラーニングによるキャリア教育入門』東洋館出版社
- Nweze, T. & Okolie, U. C. 2014. Effective guidance and counselling programme in secondary schools: Issues and roles in students' career decision making. *Journal of Research & Method in Education* Volume 4, Issue 4 Ver. V PP. 63-68
- Rukwaro, M. W. (2015). Access to career information to secondary school girls in Nyahururu division, Kenya. *Merit Research Journal of Education and Review*. Vol. 3(9) pp. 275-284
- Super, D. E. (1990) A life-span, life-space approach to career development. In D. Brown & L. Brooks (Eds.), *Career choice and development: Applying contemporary approaches to practice* (2nd ed., pp. 197-261)
- Wambu, G. & Fisher, T. (2015) School Guidance and Counseling in Kenya: Historical Development, Current Status and Future Prospects. *Journal of Education and Practice*. Vol. 6, No. 11, pp. 93-102